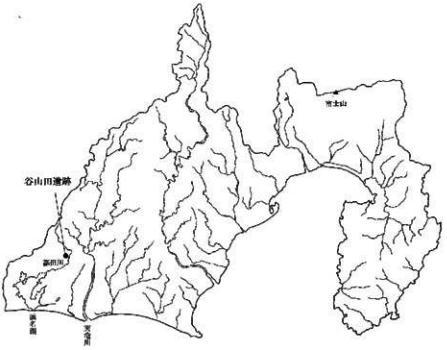
谷山田遺跡
（ヤセンダ）



2000年

（財）浜松市文化協会

例　　言

1、本書は浜松市滝沢町馬場1872番地の２外で行われた谷山田遺跡（第二東名138地点）の発掘調査報告書である。

2、調査は第二東名高速道路建設に先立つ事前調査として実施した。

3、調査は日本道路公団静岡建設局の委託により、浜松市教育委員会（浜松市博物館）の指導のもと財団法人浜松市文化協会が実施した。

4、現地調査、および本書の作成は佐藤由紀男（浜松市博物館）が担当し、柴本七重（浜松市博物館）が補佐した。

5、本書の執筆は佐藤由紀男が行った。

6、調査の記録、出土遺物は浜松市博物館が保管している。

Ⅰ、はじめに

浜松市滝沢町谷山田遺跡（第二東名138地点）は第二東名高速道路建設に係わる遺跡分布調査で発見された遺跡である。遺跡のほぼ全域が建設用地に含まれている為、工事に先立ち、日本道路公団静岡建設局の委託を受けた財団法人浜松市文化協会が、発掘調査を実施することとなった。 第二東名高速道路

Ⅱ、地理的・歴史的環境（第１図）

愛知・静岡県境の浅間山付近に発する都田川は、渋川・久留米木・滝沢の山間部を流れ、浜松市都田町川山から下流では平野を形成し、浜名湖に注いでいる。浜松市滝沢町は、そうした都田川上流域の山間部である。標高394mの宇津峠を最高所とし、標高 160m付近までは急峻な地形である。しかし、それ以下は比較的緩やかな斜面であり、末端は都田川に注ぐ幾つもの沢によって分断され、舌状を呈している。谷山田遺跡（３）はこうした舌状丘陵の緩斜面に立地しており、東側と南側には沢が流れている。 都田川上流域 緩斜面

谷山田遺跡東側の沢の最奥部には岩除遺跡である滝沢鍾乳洞遺跡（１）と行者穴遺跡（２）が立地している。滝沢鍾乳洞遺跡は縄文時代早期から晩期、そして平安時代から室町時代にかけての遺跡であり、行者穴遺跡は縄文時代早期から前期の遺跡である。両遺跡と谷山田遺跡は同一の沢に面し、距離も１kmしか離れていず、また時期的にも重複する為、密接な関係が予想される。 滝沢鍾乳洞

谷山田遺跡の東側の沢と南側の沢はやがて合流し、遺跡から１km程、東で都田川に注いでいる。その注ぎ口の対岸斜面上には三堂山遺跡（４）が立地している。この遺跡の詳細な時期は不明であるが、縄文時代の石錘が出土している。 三堂山

堀谷洞窟遺跡（６）も都田川に注ぐ沢に面した洞窟遺跡である。縄文時代中期から晩期、弥生時代後期から古墳時代前期、奈良時代から平安時代の土器が出土している。 堀谷洞窟

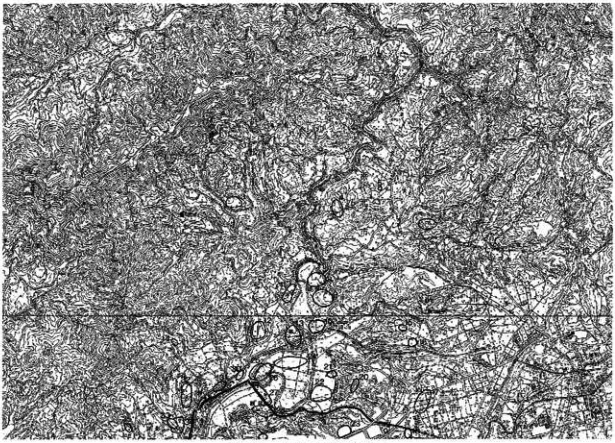
時期の詳細は不明であるが、大平地区では経塚（５）も確認されている。

以上が都田川上流域の山間部で確認されている、縄文時代から鎌倉時代と推定される遺跡である。

Ⅲ、調査の方法と経過

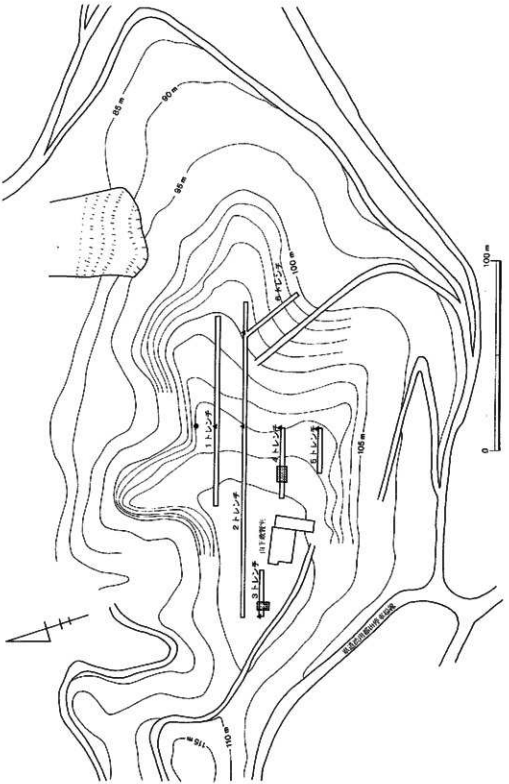
まずは、正確な遺跡の範囲と時期を把握する為に、トレンチ法による確認調査を行うこととした。 確認調査

トレンチは丘陵の方向に合わせて東西方向に幅２mで設置することを基本とした。第二東名高速道路も東西方向に建設される為、同遺路の基準線と同一方向にトレンチを設定した。具体的には日本道路公団の道路北側基準 89ポイントから基準線上西 20m地点（第２図●表示）を基本点とし、南 10m、 25m、 45m、 65mの地点に1トレンチ、2トレンチ、4トレンチ、5トレンチの基準点を設置し、道路の基準線と並行したトレンチを設定した。3トレンチは２トレンチ基準点から西100m、南10mの地点を基準点として設置した。6トレンチは２トレンチ基準点から東50mの地点を基準点として斜面の傾斜に合わせて設置した（各トレンチの基準点は第2図▲表示）。なお、遺跡の推定範囲内には現在居住中の住宅が有るので、その周辺は除外してトレンチは設定した。 東西方向

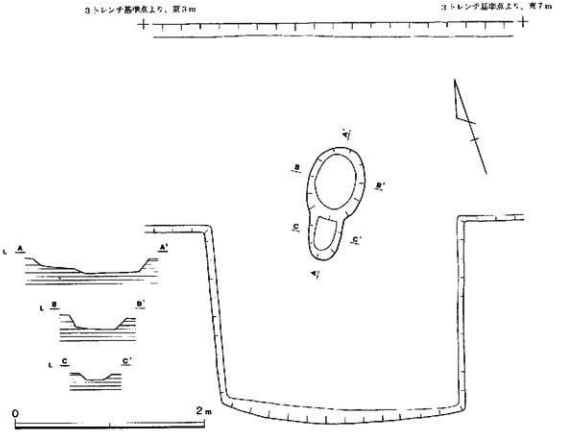


第1図　周辺遺跡分布図

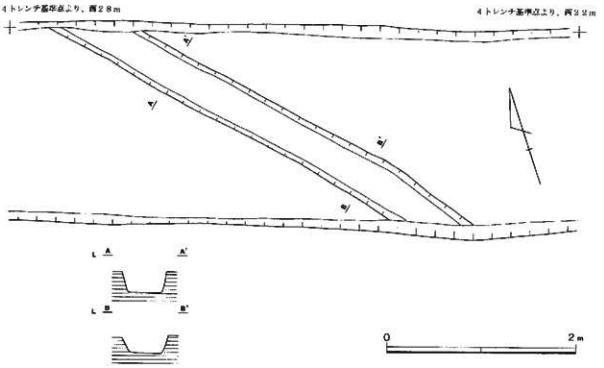
1. 滝沢鍾乳洞遺跡
2. 行者穴遺跡
3. 谷山田遺跡
4. 三堂山遺跡
5. 大平経塚
6. 堀谷洞窟遺跡
7. 大平城跡
8. 早瀬遺跡
9. 助ヶ平遺跡
10. 川山遺跡
11. 都田町和田遺跡
12. 須部B古墳群
13. 須部Ⅰ遺跡
14. フルカヤ遺跡
15. 都田山十九Ⅰ遺跡
16. 都田町東原遺跡
17. 都田山十六遺跡
18. 沢上A古墳群
19. 都田山十三Ⅲ遺跡
20. 飛ヶ谷遺跡
21. 新木遺跡
22. 川の前遺跡
23. 松田谷遺跡
24. 須部Ⅱ遺跡
25. 只尾遺跡
26. 尾高山遺跡
24. 貴見寺東遺跡
28. 都田町本村遺跡
29. 見徳古墳群
30. クマ平遺跡
31. 熱田平遺跡
32. 中野古墳群
33. 吉影A古墳群
34. 須倍神社西遺跡
35. 吉影八幡神社遺跡



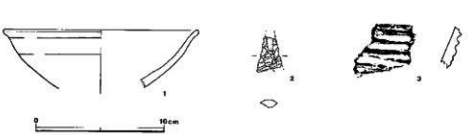
第2図　周辺地形及びトレンチ位置図



第3図　3トレンチ検出の炭焼き窯（L=111.70m）



第4図　4トレンチ検出の溝（L=109.20m）



第5図　採集遺物実測図

トレンチ

トレンチは重機（バックフオー）を用いて、地山と考えられる赤褐色土層の上面まで掘削し、その後、人力にて平面、断面を精査し、遺構・遺物の検出に努めた。そして検出した遺構は時期や性格を把握する為に掘削した。掘削が完了した遺構は20分の1縮尺で実測図を作成すると共に写真撮影を行い、記録した。

そして、その後、必要に応じて遺構の周辺を拡張し、トレンチと同様の工程で調査した。

日程

実際の調査は以下の日程で実施した。

2000年5月8日	器材運搬、トイレ・テント設営、測量
5月9日～15日	重機によるトレンチ掘削、人力によるトレンチ精査
16日	人力によるトレンチ精査、遺構の掘削、実測
18日	拡張区の掘削・精査・遺構の掘削・実測、器材の撤収
19日	トイレ・テントなどの撤収

Ⅳ、調査の成果

基本層序

遺跡の基本層序は、表上層と地山である赤褐色土層の二層のみである。表上層の厚さは30cm程度である。地山に類似した赤褐色の土層で、耕作の有無が地山と区別する大きな違いである。一見、天地返しなどの深耕が行われたかの如き色調であるが、そうした深耕は行われていなかった。元々、腐植土などが堆積しにくい環境にあったと推定される。

以下、各トレンチの調査結果を記していく。

1トレンチ（全長100m）では、遺構・遺物とも検出されなかった。

2トレンチ（全長166m）でも、遺構・遺物とも検出されなかった。

炭焼き窯

3トレンチ（全長25m）では壁面が焼け、覆土には炭化物を多量に含む、炭焼き窯の焚口部と推定される遺構を検出したので、その周辺を拡張（拡張面積約5㎡）したが、燃焼室部分は残存していなかった（第3図）。出土遺物は無い。

溝

4トレンチ（全長37m）では、小穴と溝を検出した。小穴の覆土は、表土層と類似し、覆土中からプラスチック製品が出土したので現代の遺構と判断した。溝の幅は45cm前後、深さは15～20cm（第4図）、覆土は小穴とは異なり、硬く締まった暗褐色土層である。小

穴よりは古相を呈する覆土であるが、出土遺物は無く、時期は不明である。

5トレンチ（全長23m）では遺構・遺物とも検出されなかった。

6トレンチ（全長35m）でも遺構・遺物とも検出されなかった。

採集遺物

なお、発掘調査では遺物が出土しなかったが、遺跡発見時の分布調査や今回の調査時の表面採集で20点ほどの遺物が採集されている。採集地点は4トレンチ周辺と6トレンチ周辺である。4トレンチ周辺では縄文時代のチャートの石鏃（第5図2）や剥片、黒曜石の剥片、平安時代の灰釉陶器もしくは鎌倉時代の山茶椀と推定される陶器片が採集されている。6トレンチ周辺からは弥生時代前期の条痕紋系土器（第5図3）や灰釉が漬け掛けされた平安時代中頃（10世紀代）の陶器（第5図1）が採集されている。

V、まとめ

炭焼き窯と溝

今回の調査で検出された埋蔵文化財と推定される遺構は、炭焼き窯と溝のみであり、しかも両者とも出土遺物が無く、時期は不明である。ただし、炭焼き窯については、三方原台地上で検出されている同様の形態の炭焼き窯から平安時代後半～鎌倉時代の陶器が出土しており、また谷山田遺跡からも同時期の陶器が採集されているので、この時期のものと推定される。溝については隣接する2トレンチ・5トレンチでは検出されなかったので、比較的長さの短い溝と推定されるのみである。

遺構・遺物少ない

なお、縄文時代・弥生時代・平安時代～鎌倉時代の遺物が採集されていながら遺構が極めて少ない理由は以下の如く考えている。

季節的居住

①縄文時代の石鏃や剥片が採集されながら、遺構が検出されないのは、季節的居住の如く、短期間に限って利用された遺跡である為に、その痕跡を遺構として残さないか、極めて頻度が低い為と推定される。こうした事例は浜松市内でも幾つか知られている。

土器棺

②条痕紋系土器が出土しているが、この時期の土器は土器棺墓として検出される事例が多い。土器棺墓は群集することもあるが、1基もしくは数基で営まれることも多く、遺構の頻度としては極めて希薄である。こうした遺構を今回の様なトレンチ法による調査で確認することは難しい。

炭焼き窯

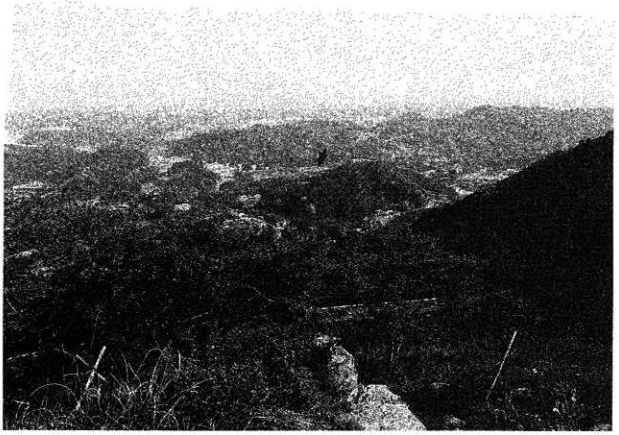
③炭焼き窯が1基検出されていることから判断すれば、採集されている平安時代から鎌倉時代の土器は炭焼き窯に伴う可能性が高い。面積あたりの炭焼き窯の遺構頻度は低く、②と同様、トレンチ法による調査で検出することは難しい。

流失

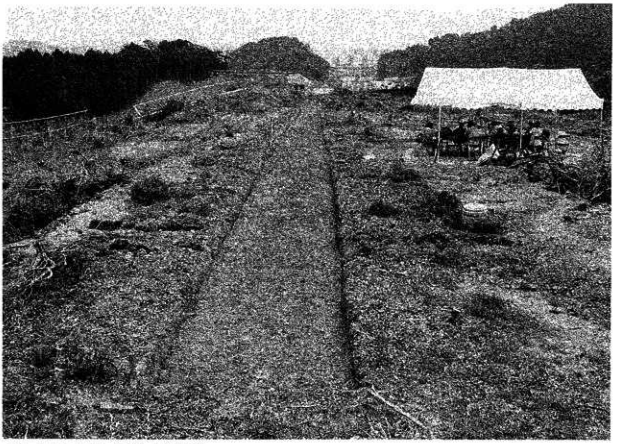
④谷山田遺跡の表土層の厚さは薄く、しかも地山の赤褐色土層に近い色調である。これは前述した様に、腐植土などが堆積しにくい環境にあった為であろう。したがって特に斜面では地山の赤褐色土は流出していると考えられる。遺跡内では最も平坦な部分に構築された3トレンチの炭焼き窯においてすら、検出できたのは焚口部のみであり、深さの浅い燃焼室部分は流失してしまっている。平坦部においても流失が確認されるのであるから、斜面部分の遺構は流失している可能性が極めて高い。6トレンチ周辺で採集された遺物も流出品であろう。

以上、簡単であるがまとめとする。

写真図版1

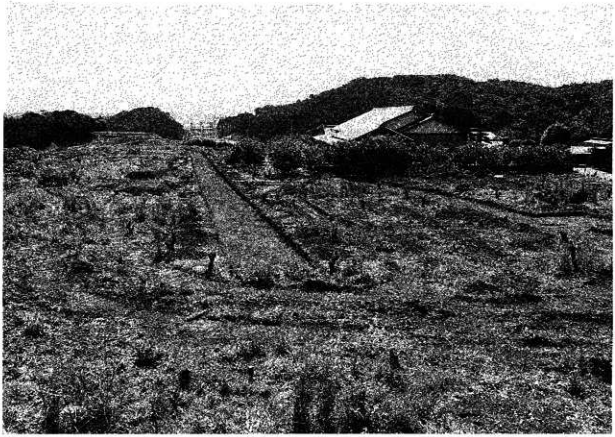


A） 発掘区遠景（北から）

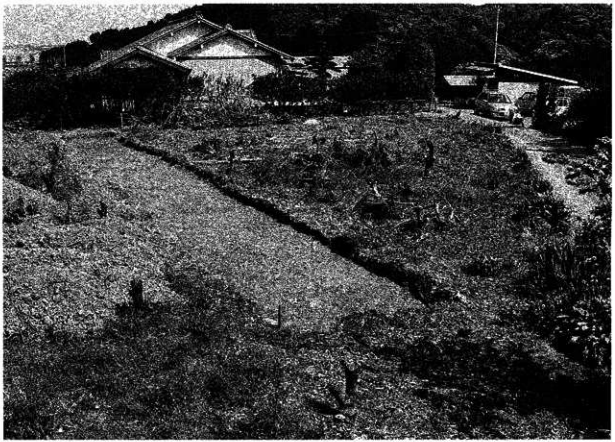


B） 1トレンチ 完掘（西から）

写真図版2

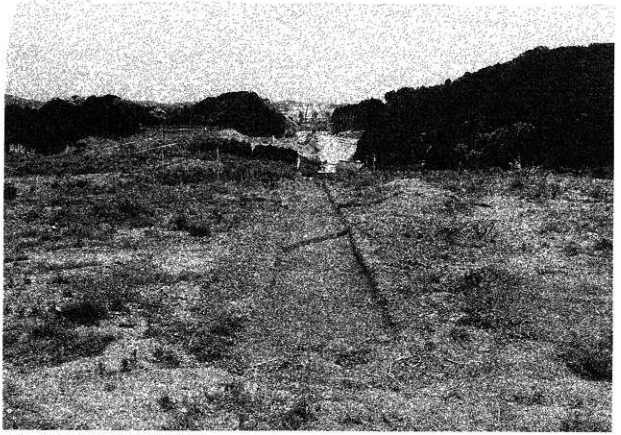


A） 2トレンチ 完掘（西から）

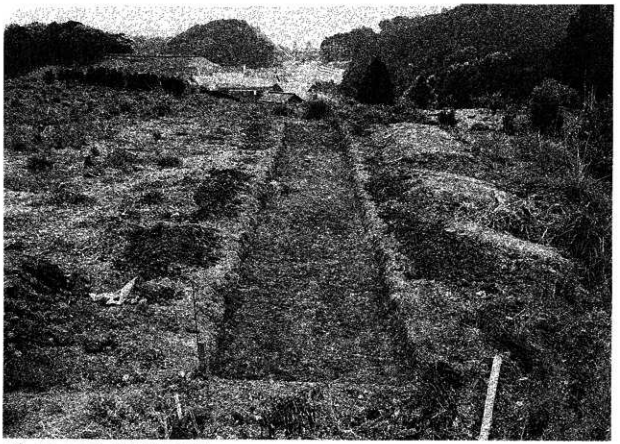


B） 3トレンチ 完掘（北西から）

写真図版3

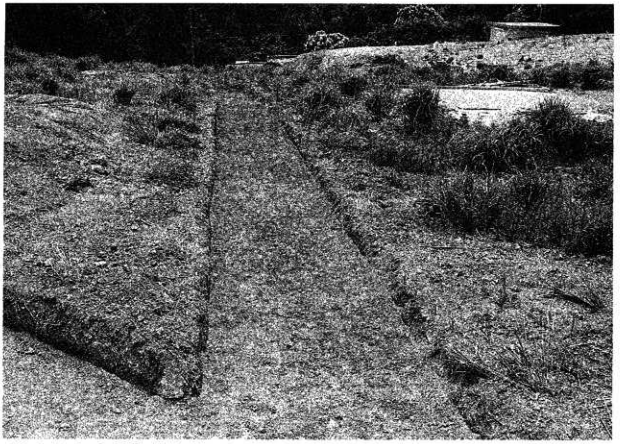


A） 4トレンチ 完掘（西から）



B） 5トレンチ 完掘（西から）

写真図版4

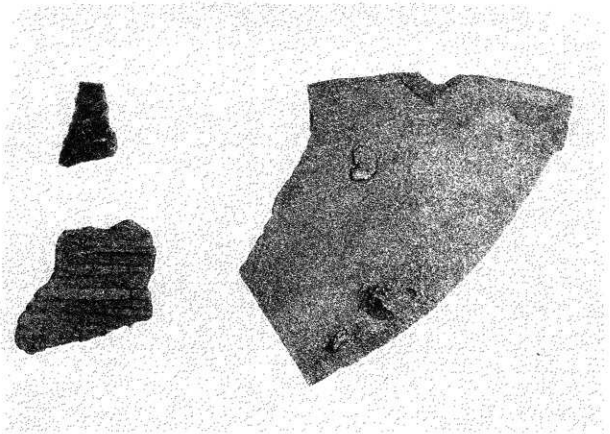


A）6トレンチ 完掘（北から）

B）3トレンチ 拡張区 炭焼き窯（北から）

写真図版5

A） 4トレンチ 溝（北から）



B） 採集遺物

報告書抄録

書名（ふりがな）	谷山田遺跡（やせんだいせき）
副書名	
巻次	
シリーズ名・番号	
編著者名	佐藤由紀男
編集機関	浜松市博物館 〒432-8018 浜松市蜆塚四丁目22-1 TEL.053-456-2208
発行機関	財団法人浜松市文化協会 〒430-0916 浜松市早馬町2-1 TEL.053-453-5311
発行年月日	西暦 2000年6月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
谷山田（やせんだ）	静岡県浜松市（しずおかけんはままつし） 滝沢町馬場（たきさわちょうばば）	22202	01-1	34度 50分 50秒	137度 43分 25秒	20000508 ～ 20000518	約777㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
谷山田		縄文 弥生 平安～鎌倉	炭焼き窯	石鏃 条痕紋系土器 灰釉陶器	

谷山田（ヤセンダ）遺跡

2000年6月30日

編集　浜松市博物館
発行　(財) 浜松市文化協会
印刷　東海電子印刷（株）